

	児童の実態	改善プラン	改善プランの評価方法
国語	① 自分の考えを積極的に発言する児童が固定化されており、考えはあるが発言に至らない児童が多い。また、考えをまとめられない児童もいる。 ② 漢字の定着に差がある。特に、文章の中で既習の漢字を使うことができない児童がいる。	①発言がない児童も、考えを発信する経験ができるよう、全体で意見を共有する前に、ペアで互いの考えを伝え合う時間を作ることで、考えを友達に伝える時間をつくる。考えがまとめられない児童については、友達の考えをもとに自分の考えの方向性をもたせる支援をする。 ②モジュールの時間や家庭学習を活用し漢字の学習に取り組む。また、小テストの返却後の直しをきちんと行い、定着をはかる。ノートの記述や作文の中で、既習の漢字を使うよう指導する。	① 共感、反対意見を挙手やハンドサインで示すなどの意思表示をする機会を、1時間中に数回、設定する。ノートやワークシートの記述で評価を行う。 ② 学期に数回、普段の家庭学習の様子や小テストの結果、授業中の児童の様子を担当間で交流する。授業、単元後の評価をし、次の指導への工夫に生かす。
社会	①地図やグラフ、写真といった資料から情報を読み取ることが苦手な児童が多い。 ②学習したことが生活に深く関わっていることに気づき、興味・関心をもって学習できる児童も多い。しかし、生活にどのように関わっているのか関連付けられない児童もいる。	①地図の色分けの意味やグラフの縦軸と横軸が表していることなど、一つ一つの資料の読み方を丁寧に指導する。資料から分かることを伝え合う場面をつくり、友達同士で学び合えるようにする。 ②学習内容と実生活とがつながるよう、発問や学習形態を工夫する。	①資料をもとにノートや提出物がまとめられているか確認し、評価する。 ②生活に結び付けて考えることができているかどうか、ノートやワークシート、発表などから評価する。
理科	①実験の結果から考察することに慣れておらず、考察内容の個人差が大きい。 ②様々な実験器具が増えてきているが、その取り扱い方がよく分かっていない児童もいる。	①めあてに立ち返ることを意識させ、実験結果から分かることは何か、視点を明確にして考えさせる。 ②実験器具の取り扱い方や実験方法については、板書に視覚的に表したり、ICT機器を使ったりすることで、十分に理解させる。	①発言やノートの記述が科学的な視点から行われているか評価する。 ②児童の活動の様子や、実験の結果から、実験方法を適切に理解し、活動できていたかを評価する。
体育	①学習意欲が高く、友達と協力して作戦を考え、運動に取り	①運動のルールや決まりを明確にし、児童の思考、判断が生かされ	①学習シートや学習へ取り組む姿勢から、望ましい行動が

	組むことができる。 ②自己の課題を把握した上で、思考、判断する習慣が薄い。また、言葉や文字にして取り組みを表現する力が弱い。	る授業づくりに努める。 ②技能ポイントを明確にする。同時に、友達と自己の動きを学習者用端末等で振り返り、具体的な改善を図れるようにする。	見られた場合には評価する。 ②学習シートや学習者用端末を用いて振り返り、評価をする。
道徳	①教材が児童にとって興味深いものであれば、児童は意欲的に取り組む。 ②熱心に考え、道徳的価値を見出せる児童と、表面的な感想に終始する児童に分かれる。	① ねらいに沿って、自己を振り返る場面を必ず設定する。 ②発問を工夫し、自己の日常の振り返りから、自分自身を深く見つめられるようにする。	①②発言やノートの記述にて、道徳的価値に迫れているのか、自分を深く見つめているのかを見取り、評価を行う。
総合的な学習の時間	①自ら学習課題をもち意欲的に取り組める児童が多い。調べる際は、学習者用端末を活用し、課題解決に必要な情報を集められるようになってきた。同時に、調べた内容をスライドにまとめる技術が高まっている。 ②インターネットで調べた内容を、自己分析し理解を図らないで、そのまま活用する児童が多い。	①児童の情報収集、体験・交流活動等が充実するように、環境を整える。同時に、事前に検索サイトや検索キーワード例を児童に指導し、調べ学習の充実度を高める。 ②情報の収集段階で学習者用端末を活用する際には、収集した情報をワークシート等へ書きとめ、言葉の意味や背景を整理しながら自分の言葉に置き換えられるよう指導する	①②授業の様子やワークシートやポスター、新聞、スライドなどから判断し、評価する。 ①②単元に関わる地域の方やゲストティーチャーなどから助言をもらい、指導の工夫に生かす。
特別活動	① 当番や係活動、話し合い活動などに積極的な児童が多い。自分たちで学級全体を楽しませる活動考えるなど、創造的な活動ができている。一方で、活動に参加していない児童もいる。	①児童間で声を掛け合うなどして協力して活動を行うよう指導していく。また、自ら積極的に役割を果たしている児童を認める声掛けをして、学級全体の意識向上につなげる。 学級活動の時間や帰りの会などの時間も活用して、児童が活動を発表できる機会を確保する。	① 個人やグループとしての目標や、活動の計画を明確に立てさせ、振り返りを行い評価する。
外国語活動	①外国語活動には意欲的に取り組んでいる。挨拶や感情表現、「I like～」などのセンテンスを用いた会話、数（30まで）、アルファベット（小文字）の習得に関して個人差が大きい。	①学習した英語表現の定着を目指し、年間指導計画・授業スタイルを確立していく。	①英語表現定着をねらいとするアクティビティを行っている活動中に、個別にグループを周り、児童の定着度を確認し、評価をする。

	②会話やゲームなどに意欲的に取り組む児童が多いが、コミュニケーションに消極的な児童もいる。	②英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験できるように、会話練習の仕方やゲームのやり方などを工夫する。	②単元ごとに、学習の振り返りをワークシートに書いて自己評価をし、学習に対する考えを見取る。
--	--	--	--